

高 1 ミニ研・個人課題研究

【仮説】

高校 2 年次必修科目「個人課題研究」に向けた準備として、全員が夏休みを中心とした短期間の研究に取り組む。テーマ設定や研究実施、レポート執筆、ポスター発表といった一連のプロセスを経験することで、個人課題研究への意識が高まり、研究スキルが向上する。

【対象学年】

高校 1 年生（259 名）を対象とし、年間を通して実施した。

【内容】

以下の日程で個人課題研究、ミニ研に関する活動を行った。主に総合的な学習の時間を用いて活動を行った。

表 1 日程と内容

5月13日(月)	個人課題研究ガイダンス	高2必修科目「個人課題研究」を見据え、全体スケジュールを提示した。過去の個人課題研究テーマの紹介や「ミニ研」の実施についての説明を行った。
6月17日(月)	ミニ研ガイダンス	「社会系研究」、「人文・語学系研究」、「国際系研究」、「自然科学系研究」、「芸術系研究」、「保健体育系研究」、「数学系研究」の7つの分野に関して、テーマ設定の仕方や研究方法の説明を行った。昨年度の優秀ポスターを生徒に示し、イメージ作りを行った。
7月6日(土)	ミニ研テーマ決定	7月8日(月)をテーマ決定用紙の提出締め切りとした。生徒が興味を持ったことを探究することを趣旨としたため、研究テーマの妥当性を教員が指摘することはしなかった。
7月22日(月)	分野別集中ガイダンス	夏休み初日を高1は全員登校日とした。2講座以上を選択するよう指導し、希望分野の講座を受講した。講座は1コマ50分とした。教員は全部で25名が講師として関わった。時間割と受講人数は表2の通りである。
夏休み	研究実施期間	7月下旬から8月にかけて、各自で研究活動を行い、レポートを提出した。
9月	ポスター制作 (情報の授業内で)	1人1台コンピュータを使い、ポスター(A3サイズ1枚)のデザインや構成についての指導を行った。
9月30日(月)	個人課題研究ガイダンス	「個人課題研究の手引き」(本校オリジナルテキスト)を配布し、目的やテーマの決め方について説明した。
10月7日(月)	ポスター発表会	1人4回ずつ発表を行った。ベストポスター35名を決定し、掲示した。
12月7日(土)	テーマ・課題指導者決定	12月12日(木)をテーマ・課題指導者決定の締め切りとした。自主相談期間を設定し、生徒は複数の教員を回り、テーマ・課題指導者を決定した。
12月20日(金)	文献調査の方法・研究倫理の話	本校司書教諭が講師を務めた。インターネットや書籍を使って情報を収集する方法を学んだ。本校では、CiNiiを使って研究論文も検索することができる。研究を進めるにあたり、倫理的に配慮すべき事項について解説した。
冬休み	序論執筆	論文執筆の開始。序論として、研究動機、研究目的、研究方法をまとめた。
12~1月	レポートの書き方指導 (情報の授業内で)	参考文献を探し、論文を執筆する際の引用の仕方、および参考文献情報の書き方等を指導した。
1月~3月	高1個人課題研究ゾーン	「序論添削」「研究活動の開始」「春休みの研究についての指導」を行った。

表 2 7月22日 個人課題研究集中ガイダンスの時間割と受講人数

1限	現代社会	地理学	数学	化学	芸術	スポーツ科学
	34人	5人	9人	36人	41人	64人
2限	外国語・異文化			生物学	家政	認知科学
	41人			67人	19人	58人
3限	日本語・国語	企業・経営		物理学	情報学	SDGs
	18人	55人		39人	14人	52人
4限		歴史学	医学	地学	教育学	国際協力
		22人	61人	16人	37人	46人

ミニ研究は夏休み期間を利用し、生徒が自主的に活動する。9月上旬にレポートを提出させ、9月中に発表用のポスターを作成させた。レポートならびにポスターの提出には Google Classroom を利用した。なお、レポートの形式は個人課題研究の論文形式に慣れさせるため、個人課題研究と同一のフォーマットを利用させた。10月7日(月)にポスター発表会を行った。発表3分、質疑・コメント2分の形式で1人が4回ずつ行った。聴衆の問題発見力や表現力を高める取り組みとして、聴衆は必ずコメント(発表に対する質問、研究を改善するための提案)を行うことを義務づけることとした。生徒による評価と教員による評価を合わせて、優秀ポスターを選出し、校内に展示した。10月28日(月)には個人課題研究のガイダンスを行い、テーマ設定を開始した。目的や日程の説明には本校のオリジナルテキストである「個人課題研究の手引き」を利用した。「個人課題研究の手引き」には、研究の進め方や論文の執筆要項の他、生徒と課題指導者が研究プロセスを評価するための評価シートや各提出書類がまとめられている。生徒は本校教員との対話を繰り返し、研究テーマに対する認識を深め、冬休み前には全員がテーマ設定を終えた。

ポスター発表後から12月7日(土)までが、個人課題研究の研究テーマならびに課題指導者の決定期間となる。

【検証】

個人課題研究の研究テーマ決定後にミニ研の振り返りと個人課題研究の研究テーマの接続性について調査を行った。分析対象は個人課題研究に取り組む生徒のみで236名である(IB生は個人課題研究を行わないため分析対象から除外した)。

ミニ研の活動の満足度(表3)は、5段階評価で平均3.4であった。ミニ研の活動を通して身についたスキルについては、これまでの学年と同様に「ICT技術を使うこと」「情報収集の分析」「わかりやすく伝える」「文章力」などがあがっており、生徒それぞれが何かしらの力がついたことを記述していた。

次にミニ研と個人課題研究との接続についての結果を述べる。

ミニ研と個人課題研究のそれぞれの研究テーマの間に関連性があるかないかについて、「同テーマ(個人課題研究の研究テーマがミニ研の発展となるケース)」「同分野(個人課題研究の研究テーマはミニ研のテーマと同領域であるケース)」「関連分野(個人課題研究の研究テーマがミニ研のテーマと関連しているが、主テーマは異なるケース)」「無関連分野(個人課題研究とミニ研のテーマが全く異なるケース)」にわけて分類したものを表4に示す。

表 4 個人課題研究とミニ研と研究テーマの関連性

	同テーマ	同分野	関連分野	無関連分野
度数	22 (9%)	70 (30%)	47 (20%)	97 (41%)

97名(41%)の生徒が個人課題研究とミニ研で異なる分野の研究テーマを設定した。これらの生徒のうち23名が「ミニ研での取り組みが個人課題研究のテーマ設定に影響がなかった」と回答している。一方で74名の生徒が「ミニ研での知識が役立った」「ミニ研での失敗を生かすことができた」「ミニ研での研究方法が参考になった」などミニ研の取り組みに意味を見出していた。

このように研究テーマに関しては、ミニ研が個人課題研究と関連する生徒は約40%であった。しかし、関連のない研究テーマを設定した生徒であってもミニ研の活動が個人課題研究の研究テーマ設定に役立っていると回答したものが70%以上あり、したがって、ミニ研の活動は個人課題研究のテーマ設定について有用であることがわかった。

【次年度への課題】

ミニ研の目的が個人課題研究に向けた「実践」であるため、その役割は十分に果たしていると考えられる。ミニ研究と個人課題研究のテーマの関連度を高めるような指導が可能かどうか検討を進める必要があるだろう。

表 3 ミニ研の満足度
(5段階評価)

満足度	度数 (%)
1	12 (5%)
2	26 (11%)
3	78 (33%)
4	93 (39%)
5	27 (11%)